

〔学校給食需要に応えるための主要野菜の品種特性把握と出荷拡大技術〕

## 秋まきタマネギの学校給食用に適する品種の選定

遠藤拓弥・沼尻勝人・海保富士男・木下沙也佳・野口 貴\*

(園芸技術科) \*現島しよセ八丈

---

【要 約】9月中旬播種の秋まきタマネギで学校給食用に適する品種は、早生では「ソニック、ジェットスター」、中生は「ヒーロー、オーロラ」、晩生は「七宝甘 70、もみじ3号」である。

---

### 【目 的】

近年、都内の学校給食では地元産野菜の需要が拡大している。そのなかでタマネギは主要品目の一つであり横径90mm以上および300g以上といったLサイズよりも大きめの規格が求められている。そこで秋まき栽培において、学校給食用に適するタマネギ品種を選定し、普及指導上の資料とする。

### 【方 法】

2018年9月18日に「ソニック」以下早生6品種、中生6品種、晩生8品種、計20品種を200穴セルトレイに播種し、ハウス内で育苗した。11月12日に定植を行い、3条植え(17,300株/10a)と5条植え(28,980株/10a)をとともに畝間115cm、株間15cmで栽培した。基肥はN-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oの成分量で5-36-6kg/10a施用した。追肥は3月1日に中生～晩生品種区で同じく4-0-0kg/10a施用した。収穫調査は各調査区で80%以上倒伏時に実施した。

### 【成果の概要】

1. 球重において、5条植えは3条植えより小さいが、10aあたりの収量ではいずれの品種も5条植えの方が2～3割ほど多く、特に「オーロラ、ヒーロー」などは2倍近く多かった(図1)。また、球重は5条植えの早生では「ソニック、ジェットスター」などが約300gであった。中生および晩生ではほとんどの品種が300gを超えていた。球重のCV値(5条植え)は、多くの品種が20～25であったが、「秀玉丸、ノンクーラ」は40を超え、ばらつきが大きかった(図2)。
2. 5条植えの規格別割合において、早生では「ソニック、ジェットスター、ハッピー501」が8割ほどL以上であった(図3)。また、中生および晩生のほとんどの品種はL以上が8割以上あった。特に「七宝甘70」は2Lが9割を超えており最も大玉品種であった。
3. 抽苔率において、早生では「ハッピー501」、中生では「アトン、0・P黄」が15%近くあった(図4)。晩生は高い傾向であったが、「もみじ3号」含む3品種が比較的低かった。
4. 収穫時期は多くの品種が6月上旬～中旬であったが、晩生品種は6月下旬～7月上旬のものもみられた(表1)。
5. 総合的に評価して、早生では「ソニック、ジェットスター」、中生は「ヒーロー、オーロラ」、晩生は「七宝甘70、もみじ3号」が有望であると考えられる。

### 【残された課題・成果の活用・留意点】

有望品種を用いて貯蔵性および貯蔵方法を検討する。また、有望品種の球形は円形～広卵形もしくは広倒卵形～ひし形が多く、形状による加工の適否も今後検討する。

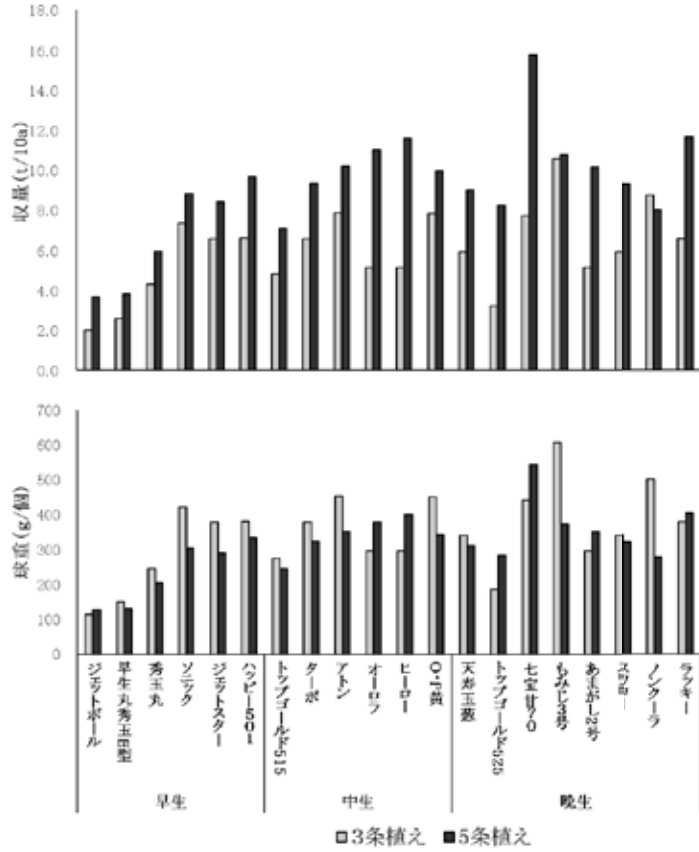


図1 3条植え, 5条植えの球重および収量

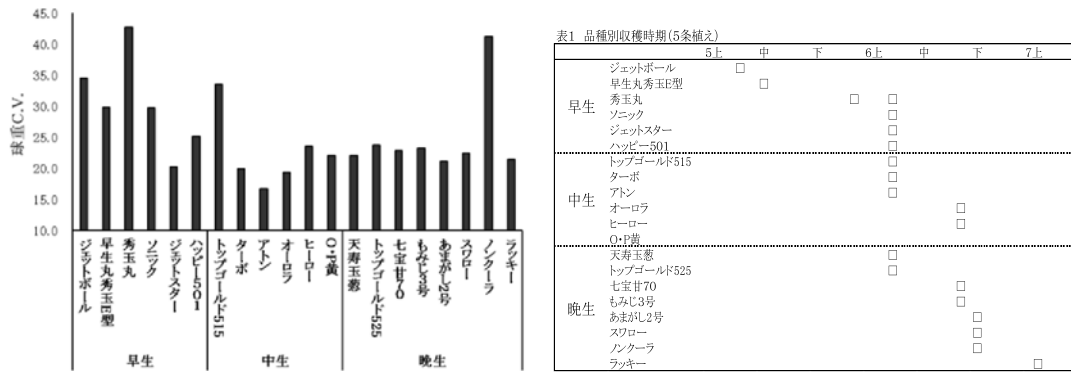


図2 球重のばらつき具合 (5条植え)

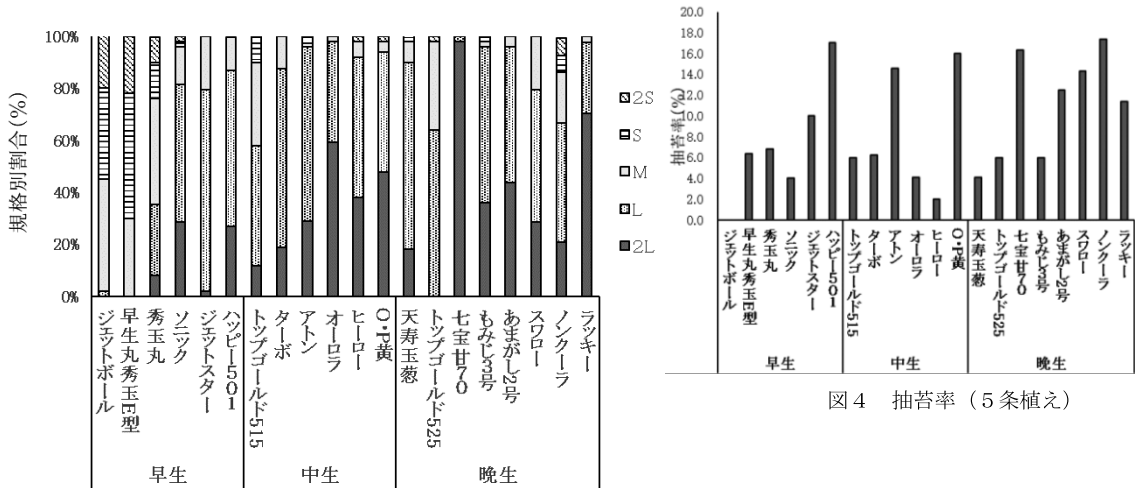


図3 規格別割合 (5条植え)

図4 抽苔率 (5条植え)